

## 第9回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン

### 企画2

オラトリオ《サムソン》

演奏会批評（那須田務氏）

『音楽の友』2012年3月号：p.153

#### ヘンデル・フェスティバル・ジャパン 《サムソン》（第9回）

今年のヘンデル・フェスティバル・ジャパン（以下HJ）の公演は「ヘンデル・オラトリオの典型」と題して《サムソン》が演奏された。国際ヘンデル協会とヘレンライター社の全面協力を得て最新の初演版に依拠した上演は国際的にも注目される。HJの実行委員長三澤寿喜の指揮、キャノンズ・コンソート他。題材は旧約聖書。サムソンが異教徒の神殿を破壊して非業の死を遂げるまでの一日が全一幕で描かれる（字幕付き）。作品への深い造詣と熱意に支えられた指揮は総譜の隅々にまで光を当てた丁寧なアプローチ。作品の等身大の姿を描き出しているが、休憩を含めて6時間という時間を感じさせない工夫があればとも思う。デリラの様式的な違和感が気になったが、辻のサムソン、波多野のミカ、牧野正人のマリア、酒井のハラファ、合唱などに感銘深い箇所がいくつもあり、全体として大変に充実した演奏だった。ヘンデルの大作を全曲ライブで聴く喜びは大きい。

（1月9日・浜離宮朝日ホール）

〈那須田務〉